

東北ブナ紀行（74）

奥田 博

今回も鬼首高原の外輪山である大柴山と花淵山のブナ林を紹介します。どちらの山も、ほぼ山形・宮城の県境稜線尾根に位置するため、偏西風の影響をまともに受けて、細いブナ・矮小化したブナが多く見られる。

113) 禿岳 1261m

禿岳は東北のミニ谷川岳と呼ばれているように、東側には雪庇崩壊による雪蝕地形がみられ、岩場が発達している。火ノ沢をはじめ東面には中ノ沢・水上沢など中上級の沢があり、若い頃に登った。またダイレクト尾根は、山頂付近から眺めても厳しい表情を見せているが、厳冬期にはいい岩登りの訓練になる、そんな東側であるが、西側にはブナの森が広がるが、登山道は無いので窺い知れない。

登山口の花立峠は、標高800m、標高差40m余登って小ピークまで行くと展望が広がる。夏の終わりに訪れた際には珍しいナンバンキセルが自生していた。

ここから先はブナの尾根を登ることになる。太いブナは無いが、厳しい季節風に耐えて生きるおしんブナが、多く見られる。将来、どんなブナに成長するのか、楽しみで未来の森と呼べそうだ。



ブナの森は山頂手前、9合目まで断続的に続く



コースタイム：花立峠（2時間）山頂（1時間30分）花立峠

114) 大柴山～花淵山 1083m

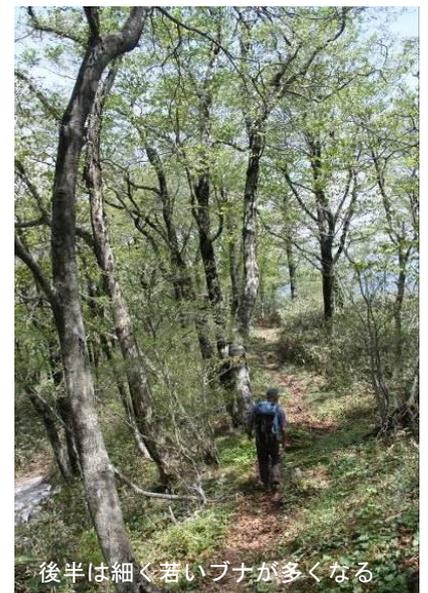
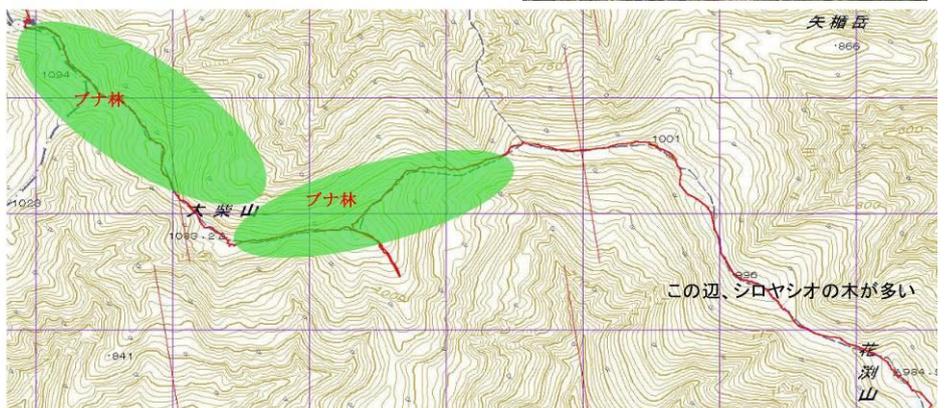
鬼首カルデラの外輪山南端にある大柴山と花淵山、鬼首スキー場の上部、禿岳同様尾根筋にブナ林が広がる。こちらは東西に伸びる尾根なので、禿岳の南北に伸びる尾根に比べると大ブナも見られるし、季節風の影響も見られる。

スキー場のテレキャビンで一気に、標高1100mの鍋倉山山頂まで運ばれてしまう。このキャビンは、安達太良山のゴンドラ同様、現在は夏期のみ運行している。以前の冬に、このキャビンを利用して、東面の深雪滑りを楽しんだが。

ゴンドラ駅が最高点で、ここから下り気味に歩き出す。もうブナの森の中を歩けるので、幸せを感じる。しかし東屋や案内板やベンチなど朽ちているのもあり、自然には不似合い・不要な人工物が展望台まで続く。その先は、次第に普通の尾根道に戻る。太いブナが点在しており撮影が楽しい。急な下りにかかる尾根は方向を変える。分岐から登り返すようになると、ブナは細くなる。

標高が千を切るころからシロヤシオの木が目立つようになる。春には見事なシロヤシオとなることだろう。やがて花淵山山頂到着する。少し先にはリフトの残骸もあるが、このまま鳴子温泉まで下ることも可能だが、ここは戻った方が無難。

コースタイム：ゴンドラ終点・鍋倉山（30分）大柴山（1時間40分）花淵山（2時間）鍋倉山



後半は細く若いブナが多くなる

この辺、シロヤシオの木が多い